
君まで、100メートル！

たこき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君まで、100メートル！

【Nコード】

N4992Z

【作者名】

たこき

【あらすじ】

思いつき小説第二段！

不定期更新！

思いつくままに書きます！

くプロローグく

くプロローグく

君と僕の距離。

おおよそ１００メートル。

たった、それだけの距離。

強靱な僕の両の足があれば、縮めることなど造作もないこと。

さあ、いざ行かん！

君のもとへ、いざ行かん！！

残り９０メートル。

残り８０メートル。

残り７０メートル。

よし、順調だ。

このまま君との距離をゼロにしておおう。

そして、君に好きだと言おう！ 抱きしめよう！

そう思った刹那、いぢ悪な春一番が吹いた。

「きゃ！」

君のスカートがはためく。

それはもう、いやらしく。

「はうっ！」

僕の股間に、テントが張った。

こんなんじゃ、君に近づけない。

今日はここまで。

君まで残り70メートル。

君との距離がゼロになる、その日まで、僕は絶対あきらめない！

残り70メートル！

君と僕の距離。

残り70メートル。

今日こそは、この距離を縮めてゼロにするんだ！

一步一步大地を踏みしめて、確実に、着実に君へ近づく。

残り60メートル。

よし、順調だ。

このまま君の目の前まで行こう。

そして、「今日もかわいいね」と愛のこもったお世辞を言おう。

僕がそんなことを考えていると、親友のケンジに声をかけられた。

「おはよ！」

「……………」

ケンジよ！ 邪魔をするな！ 僕は今忙しいんだ！

今は友より慕い人。

ケンジは無視して突き進め！

「なんだよ、あいさつくらい返せよな。おい、ところでおまえ、鼻毛出てるぞ」

鼻毛？ 出てますか？ あらまあ……

こんなんじゃ彼女に近づけない。

今日はここまで。

また明日、身だしなみを整えてから、がんばろう。

彼女との距離がゼロになるその日まで、僕は絶対あきらめない！

残り60メートル！

君と僕の距離。

残り60メートル。

今日は鼻毛をキレイに整えてきた。

顔の油も取ってきた。

もう大丈夫。

今日こそ、君のもとへ！

ズンズン進め！

ドンドン進め！！

学問のすゝめ！！！！

君との距離、残り50メートル。

いいぞ、いいぞ、このまま君との距離をゼロにしよう！

僕がそう思ったとき、近くで話をする女子の声が聞こえた。

「妙子はどんな男が好き？」

「うーん、やっぱり筋肉のある人かな」

「あー！ わかる！ 私、筋肉マッチョな人にお姫様抱っこされてみたい！」

「そうそう！ あと、腹筋もいいよね。6個に割れた腹筋とか……じゅる、マジ涎でるわ！」

「もう、妙子の変態！ でも、やっぱり筋肉は重要よね。デブとかマジ勘弁だわ」

「確かに。『デブは痩せてから来な！』なんてね。あはははは！」

僕はふと、自分の腹を見た。

僕の腹は見事に割れていた。

横に、3つ。

……いわゆる、三段腹だ。

……いわゆる、デブだ。

………こんなじゃ、彼女に近づけない。

痩せてから、また、がんばろう。

今日はここまで。

僕は絶対あきらめない！

君との距離がゼロになるその日まで。

ただ、今日はもう心が折れた。傷ついた。

僕の心が立ち直るまで、僕の体に筋肉がつくまで、どうか待っていて欲しい。

他の男に気を許さないで欲しい。

僕にはそれを言う勇氣もなければ、それを強要する権利もないのだけれど、それを願わずにはいられなかった。

神様、よろしく！

とりあえず、痩せてきます。

それまで、しばしお待ちを！

残り50メートル！

君と僕の距離。

残り50メートル。

季節は夏後半もいいところ。

残暑がきびしい、心はさびしい。

なぜかって？

君が僕の傍にいないからさ。

でも、もう大丈夫。

半年もかかってしまったけれど、今の僕は非の打ち所のないマッチョ人間。

体重は20キロ減。

体脂肪率は10%をきった。

これでもう、僕の進撃を止める要素はなくなった。

唯一気がかりだった君の交友関係も、今のところ大丈夫そうだ。

”君に特定の異性の影はなし”

これは僕の親友パート2であり、学内随一の情報屋”タケト”からの情報だから間違いないだろう。

さて、回想はこれくらいにして、歩を進めますか。

今日こそは、今日こそは君との距離をゼロにしよう。

そして、この立派な上腕二頭筋で君の華奢な体を抱きしめよう！

一步、二歩、三歩……

順調に歩を進める。

残り40メートル。

いいぞ、いいぞ！ 今日の僕は止まらんぞ！！

そう思った刹那、親友のタケトに声をかけられた。

「大樹おはよ！」

「……………」

タケト邪魔だ！

「あいさつなしかい！ まあ、いいけどさ。ところでお前、ほんとに変わったよな。前はオデブちゃんだったのに、今はまるでボディビルダーみたいだぞ」

「……………」

僕はタケトとの会話をはやく切り上げて、君のもとへ向かいたかった。

「でも、汗っかきなのはあいかわらずだな。お前、汗でYシャツびしょびしょだぞ。着替え持ってきてるか？」

「……………え？」

僕は自分の体を改めて見てみた。

……………完全なシースルー。

こんなんじゃ、君に近づけない。

今日はここまで、また明日。

ああ、こんなことで進撃を止めることになるうとは。

心も筋肉みたいに鍛えられたらいいのになあ。

でも、僕は絶対あきらめない！

君との距離がゼロになるその日まで！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4992z/>

君まで、100メートル！

2011年12月20日22時46分発行